

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおちてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立久美浜高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都府立久美浜高等学校全学年生徒（241名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ ）</p> <p>② 行事名（オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る講演会）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（歴史街道・丹後 100km ウルト라마ラソン）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく、様々な人々が、それぞれの個性に応じて参加したり、交流したり、応援したりして楽しむことができるスポーツの魅力を実感させる。</p> <p>(2) 地域のスポーツイベント等にボランティアとして参加し、挑戦する姿勢を養い、自己肯定感を高める。</p>
5 取組内容	<p>(1) 9月15日(日)</p> <p>歴史街道・丹後 100km ウルト라마ラソン運営ボランティア</p> <p>ア 内容 エイド・レストステーションでの選手誘導支援作業 60km スタート(浜公園)における荷物係、給水給食係</p> <p>イ 参加生徒 48名 陸上競技部・野球部・バスケットボール部・ソフトテニス部・カヌー部・サッカー部・一般生徒</p>



10月24日(木)

オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る講演会  
「パラスポーツの魅力」

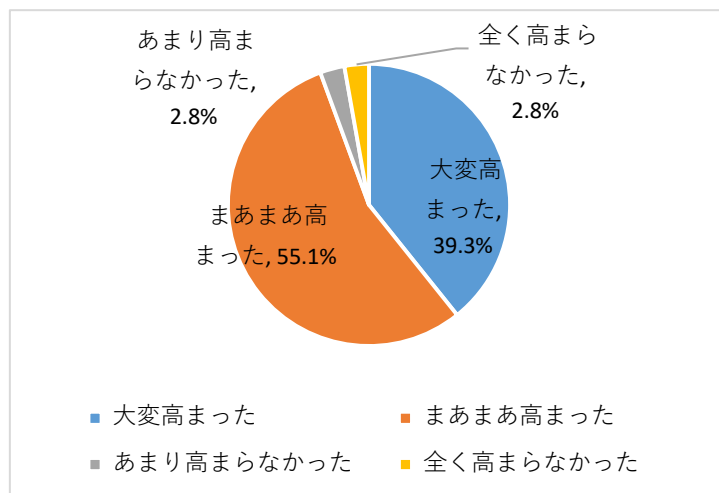
投てきの日本代表選手として活躍されている、福知山市在住の大槻浩二氏を講師に迎え、全校生徒を対象に講演会を行った。講演会では、お話をうかがうだけでなく、代表生徒が車いすハンドボールの試合を行い、他の生徒はそれを見学した。



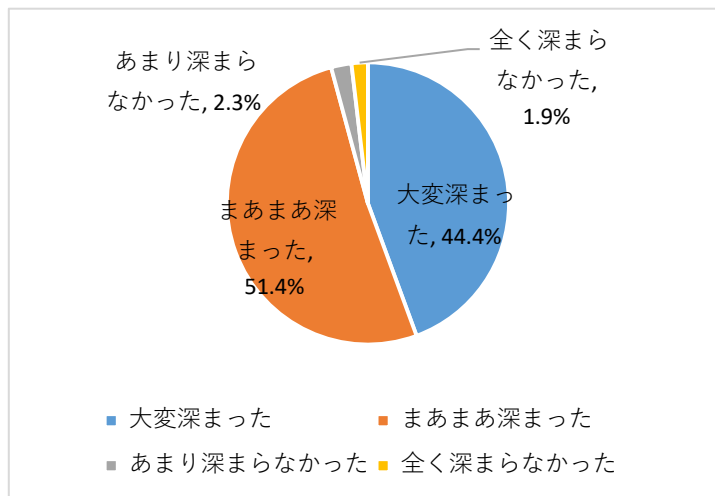
6主な成果

(1) 講演会事後学習アンケート結果

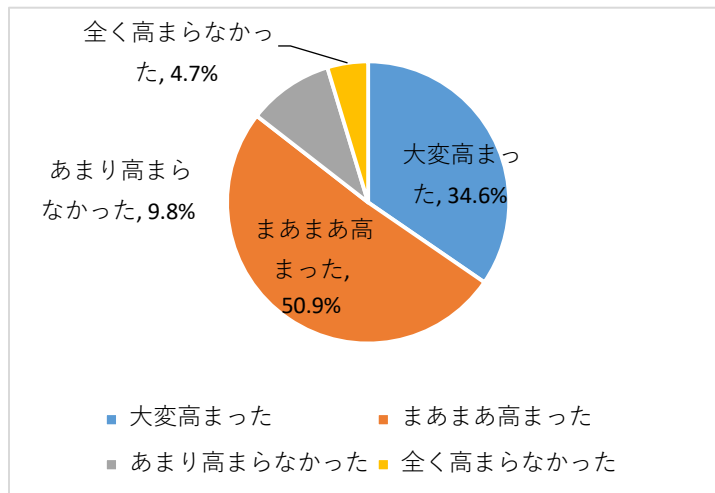
① オリンピック・パラリンピックへの関心が高まったか。



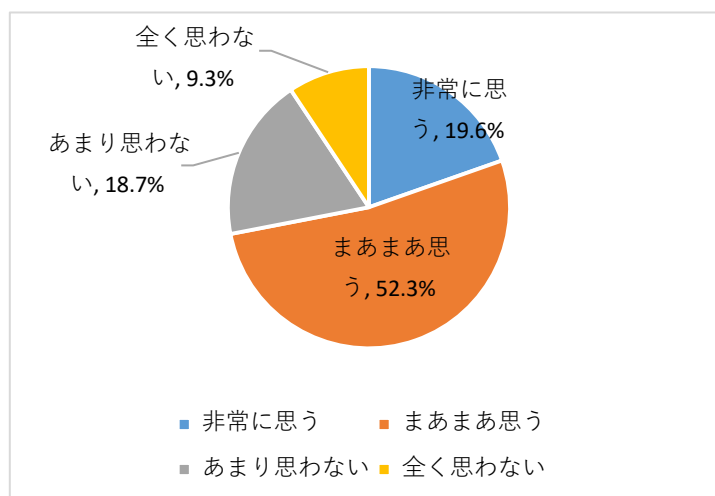
② 障害者への理解が深まったか。



③ 自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まったか。



④ 今後、地域で開催されるスポーツイベントに、スタッフやボランティアとして参加してみようと思うか。



⑤ 講演を聴いた感想（抜粋）

・パラスポーツの魅力がすごく伝わってきた。同じ目線で戦いたい、自分より年が下の人とはやりたくないと思って自分でスポーツを作るという行動がすごいと思った。

・体が不自由になったらできることが限られてくるけど不自由でもできるスポーツがあるのだなと思いました。自分も何かに挑戦してみたいと思いました。

・今回がパラリンピックの競技に関わったのは初めてだったけれど、やっぱりどのスポーツでも熱い気持ちを持って、そのスポーツをしているのだなと思いました。僕も大槻さんのようにガンガン自分の道を突き進めるようにしたいと思いました。

・自分は運動が好きだけれど、車椅子での生活になった時に、また運動を続けようとは、正直思わないと思います。続けたとしても「車椅子だから」と言い訳に使って逃げると思います。でも大槻さんはマイナスな考え方はなさそうで、車椅子であることをすごく軽く言っていたので、とても強いのだなと思いました。

・車椅子での生活になっても、暗くならず、いろいろなことに挑戦し、若くない年齢でも、まだ夢や目標に向かい続けておられるのが、かっこいいと思いました。また、自分が車椅子で競技を続けておられるからこそ、パラスポーツへの関心を広めていこうとされているのが素晴らしいと思いました。

・車椅子に乗ったからスポーツができないのではなく、何ができるのだろうと考えて行動に移すことが大切なのだなと思いました。だれもがあり得ることだと思うので、一人一人が考える機会ができて良かったと思います。

・たとえ体が不自由でも、やる気があればやれることはたくさんあることがわかった。僕も苦手なことでもどんどん挑戦しようと思う。

・講演を聴いて事故だけでなく病気でも半身不随になることがわかりました。また、そのような体になっても、いろいろなスポーツがしたいという思いや若い者と戦いたいという挑戦心があるのはすごいなと思いました。また仕事を終わって、トレーニングをいつもしていると聞いて上を目指して頑張っておられるのだなと感じました。

・講演を聴いて、自分ももっと頑張らないとと、すごく勇気もらえました。やっぱり努力は無駄にはならないのだろうなと感じたし、諦めないことはすごく大切なのだろうなと思いました。

・車椅子ハンドボールが京都から始まったスポーツだということを知りました。車椅子ハンドボール以外にも円盤投ややり投など、たくさんのスポーツをしておられて、本当にスポーツをすることが好きなのだなと感じました。

・障害がある人、ない人でどこか区別してしまいがちですが、そうではなくて一人の人として理解をもっと深めていきたいと思いました。頑張っている人は皆かっこいいと思いました。

・私が足が動かなくなったら、もうたぶんすべてのやる気をなくすと思います。そういう面では次の可能性を見つけて挑戦し続ける気持ちはすごいと思ったし、私ももっと頑張ろうと思いました。

⑥ 車いすハンドボールを体験または見学した感想（抜粋）

・慣れない車いすでのハンドボールなのでちょっと楽しいのかを疑ってしまいましたが、プレーしている人達の表情を見ると、すごく楽しそうにしていたので、今後機会があればいいなと思っています。

・車いすハンドボールを見学して、ルールは難しいわけではないけれど、判定が厳しいなと感じ、パラスポーツのすごさを知ることができました。僕は実際には体験はしていないけれど、とても魅力を感じ、自分もパラスポーツをしてみたいと興味がわきました。良い経験、時間になりました。

・車いすハンドボールは一度授業で体験したけれど、それより遙かに力強く盛り上げるようなプレーを見せてもらって、自分にはそこにはいけないけれど楽しさがすごく伝わってきたので、今度テレビ等で放送されたら観てみようと思いました。

・普通の競技は万全の状態で行うから盛り上がるのがわかるけれど、不自由なものを抱えてだと楽しくないと思っていた。でもそんなことはなく、本当に走っているかのように速く動いていてすごかったし、観ている人もとても楽しめたので良い機会になったなと思いました。それと同時に選手自身が楽しくないと観客も楽しくないから、まずは選手が楽しむことが大切なのだなと思った。

・車いすハンドボールは、私たちは車いすをコントロールすることさえ大変なのにパスやキャッチや鋭いシュートをされてすごく迫力がありました。生徒も使いこなしている人もいて楽しく見学できました。また機会があれば体験してみたいです。

・思っていたよりも車いすの方向転換をスムーズにしているのを見てかっこいいなと思った。パスがうまくまわらないと、なかなかゴールできないから声かけとかも大切なのかなと思った。

・皆が協力し、ボールを繋げていきゴールまで導こうするチームワークはとても楽しそうであり、決して動きにくいという点もなく、すべてが平等に試合をしていたので、「これがパラスポーツなのだな」と実感を持つことができた。

・とても迫力があり見応えがありました。車いすが体の一部かのように操作されていてすごかったです。私もやってみたいと思いました。またパラリンピックにも興味を持ちました。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすで動くだけでも難しいのに、さらにボールを持って投げて、技術がすごいなと思いました。でも車いすになっても、したいことを見つけて楽しんでいるのはすごいと思いました。</li> <li>・生徒や先生も参加して行っていた姿はとても楽しそうにうつりました。その中でも大槻さんたちは車いすの使い方に慣れているのが素人の目でもわかりました。</li> </ul> <p>(2) アンケート結果から窺える成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① オリンピック・パラリンピック（特にパラリンピック）への関心が高まった。</li> <li>② 年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく、様々な人が、それぞれの個性に応じて参加したり、交流したり、応援したりして楽しむことができるスポーツの魅力を実感させることができた。</li> <li>③ 自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まった。</li> <li>④ 昨年度と同様、今年度もパラスポーツの日本代表選手を講師に迎えて講演会を実施し、事後アンケートも同じ内容にした。昨年度と比較すると、肯定的な回答が、「自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まったか。」で 0.5%下回ったものの、「オリンピック・パラリンピックへの関心が高まったか。」は 2.7%、「障害者への理解が深まったか。」は 1.9%、「今後、地域で開催されるスポーツイベントに、スタッフやボランティアとして参加してみようと思うか。」は 2.6%上回った。昨年度の成果が大きかっただけに。それを上回る講師の招聘は難しいと考えていたが、体験を取り入れたことが成果につながったのではないかと分析している。</li> </ul>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 講演を聴くだけでなく、体験するということを重視した。</li> <li>(2) 障害者と健常者が同じ条件で競い合えるスポーツの魅力を伝えようとした。</li> </ul>
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 本校が所在する京丹後市久美浜町は、2020年には東京オリンピックに向けたスペイン代表チーム（カヌー競技）の事前合宿地となり、2021年には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」のカヌーマラソンの会場となる。本事業後のアンケートで、本校生徒の7割が「今後、地域で開催されるスポーツイベントに、スタッフやボランティアとして参加してみようと思う」と答えているが、関心の高まりを維持し、それを行動に繋げることが課題である。</li> <li>(2) 今年度も講師選定がうまくいき、大きな成果があったが、今年度を上回る講師の招聘はかなり難しく、来年度以降は講演会以外の形式で行う方が良い。</li> </ul>
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) スペイン代表チーム（カヌー競技）との交流</li> <li>(2) 障害者や高齢者とのスポーツをとおした交流</li> <li>(3) 地域のスポーツイベントの運営ボランティアへの積極的参加</li> </ul>